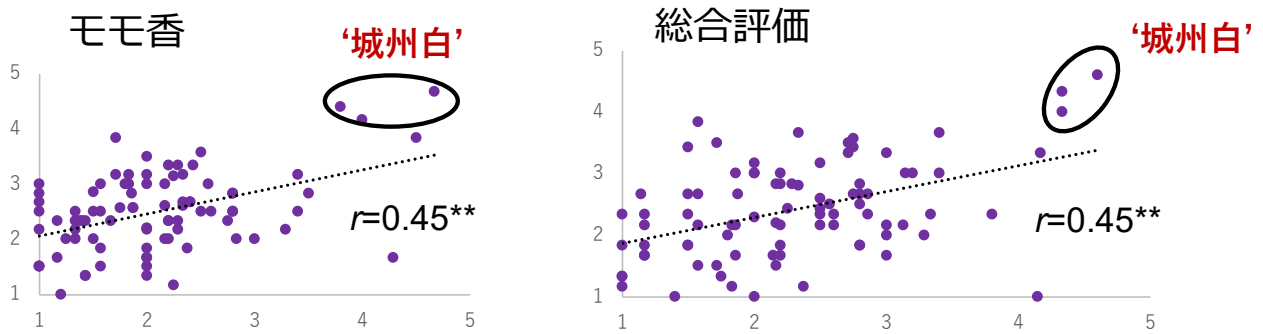


令和4年度 ACTR

分類 番号	A19	取組 名称	京都府希少農作物が持つ有用成分を生かしたブランド化推進と商品開発
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・講師	氏名： 森本 拓也
研究担当者：			
京都府立大学（森本拓也，中村考志，佐々木梓沙，板井章浩） 外部分担者・協力者（安達正寛氏，山口俊春氏，灰方正徳氏，金子明日香氏，小野愛氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府城陽市，京都府舞鶴市，京都府亀岡市， 京都府農林センター園芸部，京都府山城北農業改良普及センター			
【研究活動の要約】			
本研究は、京野菜や京都の特産果樹の生産拡大と新たな需要増加に直接寄与するため、新しい食品機能性の実証や栽培マニュアルの確立を目的としている。令和4年度（研究1年目）は城陽市の特産である梅品種「城州白」や京野菜について、過去に科学的分析が行われていない京都の特産品目を対象として、以下の研究活動を実施した。			
1) 「城州白」の果実特性の分析：特徴的な香り成分の分析や抗がん作用を示す活性物質を特定する 2) 抽出物ライブラリの整備と食品機能性の分析：京野菜を中心として機能性分析の基盤整備を行う 3) 城州白の栽培マニュアルの作成：接ぎ木による繁殖条件を開発する			
【研究活動の成果】			
1) ウメ品種群の比較によって城州白の果実はモモ様香が非常に強いことを実証し、その原因成分を特定した（第1図）。城州白の抗がん作用とこれに関与する候補物質の量的関係を調べたところ、活性を示した画分にはモモ様香をもつ物質を含む2成分を多く含有した（第2図）。 →香り成分をPR材料とした商品開発やより香り高い高品質な加工品の製造が期待できます。			
2) 京野菜が有する新しい機能性を発見するための抽出物ライブラリをさらに充実させた。 →今年度までに39品目を整備し、これらについて抗酸化試験と分化誘導試験で活性を評価した。抗酸化試験では5品目、分化誘導試験では6品目が一次試験で効果を示したため、京野菜から新たな活性成分の同定を期待できる結果を得た。			
3) 接ぎ木後の生育は、南高の実生を台木とした際に優れることが示唆された（第3図）。 →マニュアル作成と現地での技術指導を行うことで、安定した苗木供給と改植が可能になります。			
【研究成果の還元】			
2023年12月11日，文化パーク城陽，京都府民 約100名，シンポジウム「特産物で語る城陽ストーリー」			
2023年3月10日，京都府立大学生命環境学部附属農場，京都府民 約15名，「精華キャンパス ACTR（地域貢献型特別研究）成果発表会」			
【お問い合わせ先】			
生命環境学部（研究科）		果樹園芸学研究室	講師 森本 拓也
Tel: 0774-93-3265		E-mail: morimoto@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

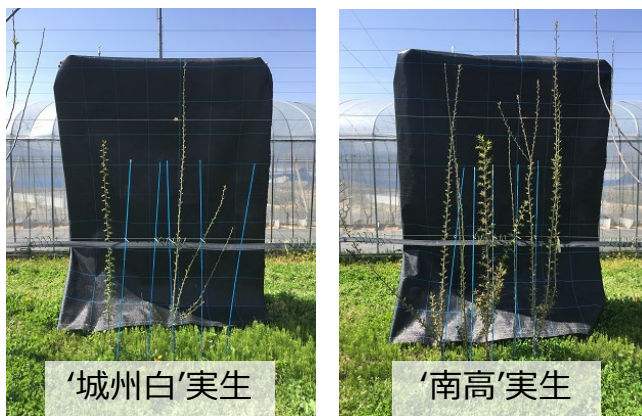


第1図. ウメ果実の香りに関する官能評価（横軸：2021年，縦軸2022年）



抗がん活性	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(++)	(-)	(-)	(-)
物質A	○	×	×	×	○	○○	○	○	○
物質B	○	×	×	×	×	○○	×	×	×

第2図. '城州白'の抗がん活性と活性候補物質の有無



第3図. 接ぎ木前の実生の生育